
僕。

登木 橙

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
僕。

【Nコード】
N8699X

【作者名】
登木 橙

【あらすじ】
少年は言った。
「世界を変える事は容易い」と。

少女は言った。
「そんな事に、どんな意味があるのか」と。
神を信じるしかない少年と、
神を信じない少女。

生を軽蔑する少年と、
生を馬鹿にする少女。
何事にも無関心で、無気力で、
生きているのに死んでいるような
人。
そんな2人が出会ってからの、
不思議な物語。

登場人物

なゆ

主人公。

自称普通の女子高生

本名不明。

冷めていて、独特の世界観を持っている。

世界や人、生と死すらもどうでもいいと思っている。

面白い事絶対主義。

それ以外では無気力。

僕／少年

謎の少年。

真っ黒なのに真っ白。

どこか達観したような瞳をしている。

神を信じたくはないが、会ったことがあるから信じるしかない、と

言っている。

常時無表情。たまに笑う。

黒猫

少年のペット(?)

いつも肩に乗っているか傍にいる。

雌。

人の言葉が分かっているようなそぶりをする。

登場人物（後書き）

ついに始めてしまいました…！
どうか長い目で見てください。

第一話

始まりは、唐突だった。

それは、私の下校途中、友達とは随分前に別れ、一人で歩いている時だった。

強い風が吹き、私は咄嗟に目を瞑った。

風が止み目を開けると、そこには1人の少年が居た。

真っ白。

それが、私が少年に抱いた最初の感想だった。けれど、その考えはおかしいとすぐに打ち消した。なぜなら、その少年にはどこも白い所が無かったからだ。

髪と瞳は、夜闇よると言うには暗すぎ、かと言って濡れ衣と言う程には美しく無かった。まるで、世界の、人の闇を全て混ぜ合わせたような、そんな色をしていた。

服はかなりぶかぶかで、袖が着物のようになっており、紺色の、変わった物だった。唯一白いのは、大き過ぎる服から覗く、病的なまでに白い肌だけだった。

少年は、私をその何も映っていないような瞳で見上げ、言った。

「初めまして、我が同胞。」

第二話

何も話さない私に構わず、少年は話を続ける。

「いや…初めまして、では無いか。久しぶり、と言った方が正しいね。」

何故久しぶりなのかは分からないが、取り敢えず返事をする。

「初めまして、名前も知らない少年。」

今思えば、私のとつた行動はおかしかっただろう。突然目の前に現れた・目は瞑つたがそれは一瞬の事で、しかも周りには隠れられる場所はない・少年と、会話をしたのだから。

「ところで少年、君の名前は？」

名前が分からなければ、会話も難しい。なので、名前を聞いてみた。しかし返ってきた言葉は

「僕は僕さ。それ以外の何でも無い。だから、好きなように呼んでくれて構わないよ。」

という、意味の分からないものだった。

「そう。それなら少年のままでもいいね。」

「いいよ。でも、君の名前を覚えてくれたらね。」

この少年は、人の質問に答えなくせに他人に質問するらしい。しかも、少年の話からすると私達は知り合いであるというのに。

「別に聞かなくてもいいんじゃないの？私達、知り合いらしいけど。」

「でも、念のためだよ。間違つてたら嫌じゃないか。」
本当に面倒臭い子供だ。

「なら、教えてあげようか。私はなゆ。もちろん、本名じゃない、あだ名さ。でも生憎、私は他人ひとに本名を教えたくない人種でね。友人達にも、そう呼んでもらってるんだ。だから君も、そう呼んでく

れるとありがたいな。」

これは本当。

私は、他人に本名で呼ばれるのが大嫌いだ。

理由は特に無いが、とにかく嫌だ。

なので、私は今まで一度も本名を名のつた事が無い。

「そっか、分かった。間違いないみたいだし、良かったよ。」

少年も納得したところで、気になっていた事を聞いてみる。

「ところで、我が同胞って、どういう意味かな。」

すると、今までずっと無表情だった顔が、微かに歪んだ。

笑ったのだった。

「そのままの意味さ。僕と君は同じ。ただそれだけの事。」

少年がそう言うと、再び強い風が吹いた。

私はまた、目を瞑る。

目を開けた時にはもう、少年は、居なかった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8699x/>

僕。

2011年10月27日08時00分発行